

## 第17回 YMFS セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖

- 期間／2009年3月27・28・29日 ●会場／静岡県立三ヶ日青年の家（静岡県浜松市）
- 共同主催／(財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS)、NPO 静岡セーリング連盟
- 参加艇／ミニホッパー級：21艇、SR級：47艇、FJ級：17艇

### KIWIセイラーを招き、昨年を大きく上回る参加隻数が浜名湖に集結

本大会は小学生から高校生までのジュニア、およびユース世代におけるセーリングスポーツの最高峰の大会として位置付けられ、毎年、春休みの期間を利用して浜名湖で開催されています。

今年は、招待選手としてセーリング大国であるニュージーランドから同じユース世代のトップセイラー3人（ジョージ・レーン、ジョシュ・ポーレブスキー、レイチェル・バスヴィ）を招き、同じレース（シーホッパーSR級）で競い合い、レース後には同国ナショナルコーチのクリフトン・ウェブ氏（シドニー五輪フィン級代表選手）によるレクチャーが行われるなど、本場のセーリング・スキルと指導方法を体験する機会が得られました。

参加クラブは、北は北海道から南は沖縄と全国から22クラブ102名が参加。初参加の5クラブ（清水ヨットスポーツ少年団、夜須中学校ヨット部、射北中学校ヨット部、香川県ヨット連盟、宜野湾海洋教室）を含め、全国からの参加がありました。

昨年の大会を大きく上回るセイラーが浜名湖に集い、冬に逆戻りした気温と強風の中、日頃培ったセーリングの技術を競い合うばかりでなく、技術を磨く選手達が交流する場として、心身共にレベルアップできた大会となりました。

### 海外コーチ、特別コーチによる勉強会

今大会には、ニュージーランドコーチのクリフトン・ウェブ氏、鹿屋体育大学助教でジュニア／ユースコーチである栄楽洋光氏、北京五輪レーザー級代表の飯島洋一選手を特別コーチとして招聘し、レース後のミーティングでセーリングに関するレクチャーを行いました。

27日の勉強会では、クリフトン・ウェブ氏がシングルハンダーのハンドリングやコントロールロープの調整方法を含め、基本的な技術指導についてホワイトボードを使って説明。

K I W I選手3名にも、レースでの走り方、練習方法などのディスカッションが行われました。

この日は、12m/sec以上の強風であったことから、「強風でも風に負けないガッツと精神的に強く挑戦する気持ちを持つことが大切」とコーチからのアドバイスがありました。

28日の勉強会では、レースでのビデオを教材にシートを使ってセールカーブの理論を解りやすく解説するなど、興味深い講義が行われ参加した選手たちは眠気も忘れて熱心にメモを取っていました。

栄楽コーチが、スタートの方法とレースタクティクスを説明し、飯島選手からはハンドリングについてのレクチャーがありました。

勉強会が行われた三ヶ日青年の家の第1研修室は、出場選手やコーチたちで満員となり、質疑応答では選手たちから熱い質問が次から次へと飛び出しました。

## 強風に強いKIWIセイラーが上位を独占

大会初日の3月27日は10～12m/sの強風のなかミニホッパー級を除き1レースのみが行われました。レース中に沈（転覆）が続出するシーンも多く見られましたが、ユース世代にはよい試練となる大会名のとおりチャレンジングなスタートとなりました。

シーホッパーSR級では、1位から3位をKIWIセイラーが独占し、ユースナショナルの上位選手であることから、初めて乗るSR級でも強風でのハンドリング、タクティクス等全てにおいて国内選手とのレベルの違いを見せつけられました。

FJ級では、岡本淳／森好史チーム（静岡県立相良高校2年）が1位で首位に立ち、地元の相良高校が地の利を生かして上位を占める結果となりました。

翌28日も午前中から6～10m/sの中・強風が吹き続き、午前中に3レース、午後に2レースが行われましたが、1位から3位をKIWIセイラーが変わる代わる独占する独壇場で、国内選手の誰がこの一角を崩すのかが楽しみになってきました。

国内選手では、前島宗樹選手（京都府セーリング連盟）、上村健人選手（静岡県セーリング連盟）が上位を追随するも、1つのブロー（風道）で離される展開が続いていましたが、第6レースで前島選手がやっと3位に入ることができました。

上記2名は、本大会前に開催されたユース強化合宿（和歌山で開催）にも参加し、KIWIセイラーの強さを見せつけられていましたが、何とか乗り慣れているSR級で一矢を報いてもらいたい期待がかかります。

FJ級では、昨日に続き岡本淳／森好史チーム（静岡県立相良高校2年）がコンスタントに上位のポイントを獲得し首位固めに入ってきました。2日目に入って浜名湖の強風に慣れてきたのか石川県羽咋工業高校、福島県立いわき高等学校も徐々に上位と競り合う白熱の展開が見られるようになりました。

今日が第1レースとなるミニホッパー級は、3レースを実施し岡崎一輝選手（YMF S葉山）が3レースをオールトップで首位を確保。2位の南村浩平選手（山中湖中学校ヨット部）を一步リードする展開となりました。ミニホッパー級では、清水ヨットスポーツ少年団、射北中学校ヨット部、夜須中学校ヨット部と初参加のクラブも多く、強風の浜名湖で厳しい洗礼を受けて苦戦していましたが、沈をしながらも一生懸命にセーリングする姿が印象的でした。

最終日の29日もコンスタントに風が吹き、全てのクラスで予定の2レースが行われました。

SR級では、昨日に続き前島選手が2位、上村選手が4位に入る健闘を見せ、KIWIセイラーとの差が、レースを重ねるごとに確実に近づいてきた印象がありました。

FJ級は、初日から安定した走りを見せた岡本／森チームが、1レースを除き全てトップフィニッシュの成績で優勝。ミニホッパー級でも岡崎選手が、5レースを全てトップフィニッシュで優勝を獲得しました。

大会期間の3日間は、冬型の気圧配置で6～12m/sの中～強風が吹き寒い日が続きましたが、KIWIセイラー3名を含め、初めて参加の選手たちもセーリングシーズンを前に、自らの力量と今後の課題を発見する良い体験ができたと思います。参加した選手の今後のステップアップに大いに期待したいものです。

## 新たなスタイルを模索して

ここ数年、春休みの時期にジュニア／ユース選手を対象にした大会が各地で開催されるようになったこともあり、本大会への参加者数は減少傾向にありました。

その改善策として昨年は、映像メディアの技術力を活用することで、レース、講習会で記録したDVDを配布、また陸上でもレース観戦、解説できるモニターの設置等、新たな取組みを行いました。「この大会に参加したい」「参加してみよう」と思える大会を目指し、レベルアップに貢献しようという試みとして、今回はニュージーランドから同世代の選手を招聘しました。

この浜名湖から、海外に羽ばたくセイラーが育つことを楽しみに、新たな役割を担うべく次回大会もよりレベルアップした大会を目指します。

※今回来日したニュージーランドコーチのレポートが下記 URL に掲載されています。

<http://www.murraysbay.org/index.php>

### <上位成績>

#### ■ミニホッパー級(参加21艇)

- 1位 岡崎一輝 YMF Sジュニア葉山 (足立区立千寿桜堤中学校2年)
- 2位 南村浩平 山中湖中学校ヨット部 (山中湖村立山中湖中学校2年)
- 3位 菊池航平 いわきジュニアヨットクラブ (いわき市立中央台南小学校6年)

#### ■シーホッパーSR級(参加47艇)

- 1位 前島宗樹 京都府セーリング連盟 (京都市立日吉ヶ丘高等学校2年)
- 2位 上村健人 静岡県セーリング連盟 (静岡県立浜松北高等学校1年)
- 3位 角野吉宣 神奈川県ユースヨットクラブ (目黒学院高等学校2年)

#### ■FJ級(参加17艇)

- 1位 岡本淳／森好史 静岡県立相良高等学校2年
- 2位 高橋永修／鈴木優斗 静岡県立相良高等学校2年
- 3位 杉田佳那／寺田有里 静岡県立三ヶ日高校2年

### <競技種目>



<シーホッパー級SR>



<ミニホッパー級>



<FJ級>

■ この件に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください

■ (財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS) 事務局: 担当・箱守 〒438-8501 静岡県磐田市新貝 2500 番地

Tel. 0538-32-9827 Fax.0538-32-1112 <http://www.ymfs.jp>



力の差を見せつけ、オープン参加ながら上位を独占する結果となった招待選手のニュージーランド勢



レース後の勉強会で、クリフトンコーチのアドバイスを受け参加選手から多くの質問が寄せられた



ミニホッパー級優勝の岡崎一輝選手



シーホッパー級SR級優勝の前島宗樹選手



FJ級女子優勝の杉田／寺田組



FJ級総合優勝の岡本／森組



閉会式でレースを観戦した長谷川至理事長（大会会長）から「今回は国際レベルの選手と一緒にレースをできたということ、レースの後の勉強会など有意義なものになったようです。一つのレースを土台として次のレースに向かって励んでください」とのコメントがありました。



閉会式では、参加選手、海外選手、関係者全員での記念撮影を行ない来年の再開を誓いました。